

国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に向けての基本的な考え方

1. 全体の枠組

- (1) 第1期で根付いた地方創生の意識や取組を2020年度以降にも継続し、「継続を力」にし、より一層充実・強化
- (2) 「長期ビジョン」の下に今後5年間の基本目標や施策を「総合戦略」に掲げて実行する現行の枠組を引き続き維持

2. 4つの基本目標

- (1) 現行の4つの基本目標については基本的に維持しつつ、「第2期における新たな視点」も踏まえ、必要な見直しを実施
- (2) 現時点では効果が十分に発現するまでに至っていない「地方への新しいひとの流れをつくる」及び「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、その取組を強化
- (3) 第1期の基本目標のKPIである「2020年時点で東京圏から地方への転出・転入を均衡」については達成が難しい状況にあるが、東京一極集中の要因について更に検証・分析を進め、民間企業との連携や、直接的な移転や移住のみならず将来にわたりこの流れを大きなものとする取組も含め、転出入均衡に向け、あらゆる施策を総動員していく
- (4) 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、少子化対策に加え、誰もが活躍できる地域社会の構築も重要な柱として加える方向で、基本目標の検討を行う

<4つの基本目標>

- (1) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- (2) 地方への新しいひとの流れをつくる
- (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- (4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

3. 5つの政策原則

- (1) 「自立性」「将来性」「地域性」「直接性」「結果重視」に加え、「連携」の位置づけをより明確化

4. 情報支援・人材支援・財政支援（「地方創生版・三本の矢」）

- (1) 引き続き、情報支援・人材支援・財政支援の「地方創生版・三本の矢」で地方公共団体を強力に支援
- (2) 地方創生関連交付金については、必要な見直しを実施

5. 第2期における新たな視点

第2期（2020年度～2024年度）においては、4つの基本目標に向けた取組を実施するにあたり、新たな次の視点に重点を置いて施策を推進

- (1) 地方へのひと・資金の流れを強化する
 - ◆将来的な地方移住にもつなげる「関係人口」の創出・拡大
 - ◆企業や個人による地方への寄附・投資等を用いた地方への資金の流れの強化
- (2) 新しい時代の流れを力にする
 - ◆Society5.0の実現に向けた技術の活用
 - ◆SDGsを原動力とした地方創生
 - ◆「地方から世界へ」
- (3) 人材を育て活かす
 - ◆地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援
- (4) 民間と協働する
 - ◆地方公共団体に加え、NPOなどの地域づくりを担う組織や企業と連携
- (5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる
 - ◆女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現
- (6) 地域経営の視点で取り組む
 - ◆地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント

6. 2020年度における各分野の主要な取組

- (1) 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす
 - ◆「地域人材支援戦略パッケージ」等による人材の地域展開
 - ◆新たなビジネスモデルの構築等による地域経済の発展
 - ◆「海外から稼ぐ」地方創生
 - ◆地方創生を担う組織との協働
 - ◆高等学校・大学等における人材育成
- (2) 地方への新しいひとの流れをつくる
 - ◆地方への企業の本社機能移転の強化
 - ◆企業版ふるさと納税の活用促進による民間資金の地方還流
 - ◆政府関係機関の地方移転
 - ◆「関係人口」の創出・拡大
 - ◆地方公共団体への民間人材派遣
 - ◆地方の暮らしの情報発信の強化
- (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる
 - ◆個々人の希望をかなえる少子化対策
 - ◆女性、高齢者、障害者、外国人等が共生するまちづくり

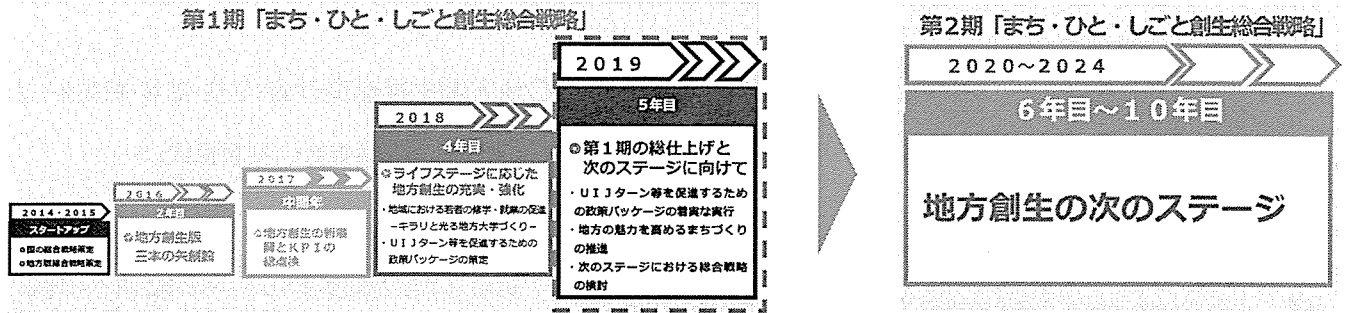
(4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- ◆交流を支え、生み出す地域づくり
- ◆マネジメントによる高付加価値化
- ◆Society5.0の実現に向けた技術の活用
- ◆スポーツ・健康まちづくりの推進

(5) 連携施策等

- ◆地方創生に向けた国家戦略特区制度等の推進
- ◆規制改革、地方分権改革との連携
- ◆東日本大震災の被災地域における地方創生の加速化
- ◆国土強靱化等との連携

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて



第2期「総合戦略」策定に関する有識者会議(増田寛也座長)において第1期の検証と第2期に向けた取組を取りまとめ

まち・ひと・しごと創生基本方針2019

◎基本方針の枠組

- ①第2期(2020年度~2024年度)の基本的な考え方
- ②第2期の初年度(2020年度)に取り組む主な事項

◎スケジュール

- 6/21:基本方針2019策定
- 12月:第2期「総合戦略」策定

※12月に示す国の第2期「総合戦略」に基づき、地方公共団体は、地方版総合戦略を策定

第2期の方向性

第1期(2015年度~2019年度)の枠組

国 2014年12月策定

長期ビジョン

:2060年に1億人程度の人口を維持する中長期展望を提示

総合戦略

:第1期の政策目標・施策を策定

地方

全ての都道府県、1,740市区町村において策定済み

地方人口ビジョン

:各地域の人口動向、将来人口推計の分析や中長期の将来展望を提示

地方版総合戦略

:各地域の人口動向や産業実態等を踏まえ、第1期の政策目標・施策を策定

4つの基本目標と地方創生版・三本の矢

1. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、
安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

【地方創生版・三本の矢】情報支援、人材支援、財政支援

第2期(2020年度~2024年度)の枠組

第1期での地方創生について、「**継続を力**」にし、より一層充実・強化

(国のビジョン・総合戦略)

◆年内に改訂(ビジョンについては、大きな変更なし)

(地方のビジョン・総合戦略)

◆国のビジョン・総合戦略を踏まえ、切れ目なく改訂

4つの基本目標と地方創生版・三本の矢

<4つの基本目標>

◆従来の枠組を維持しつつ、必要な強化

・「地方への新しいひとの流れをつくる」の取組の強化

・「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、子ども・子育て本部等と連携

◆「人材を育て活かす」「誰もが活躍する地域社会をつくる」観点を追加

◆新たな視点に重点をおいて施策を推進

・新しい時代の流れを力にする(Society5.0等)、人材を育て活かす等

<地方創生版・三本の矢>

◆従来の枠組を維持

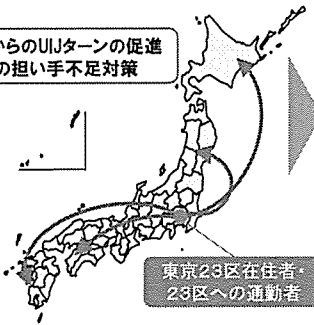
◆地方創生関係交付金については、必要な見直しを実施

「関係人口」の創出・拡大①

【地方創生推進交付金によるUIJターンの推進】(2019年度～)

	地方へ移住 (東京23区在住者又は 23区への通勤者が移住)	
地方での 就業	就業した場合 最大100万円	
地方での 起業	起業した場合 最大300万円 (最大100万円+200万円)	(地方にいたままで) 起業した場合 最大200万円

東京圏からのUIJターンの促進
地方の担い手不足対策



東京23区在住者・
23区への通勤者

○地方創生推進交付金(移住・起業・就業タイプ) (H31.4.1現在)

<交付対象事業数(1回目採択)>
・38道府県(1,034市町村と連携)

※起業支援金・移住支援金の制度を昨年12月に公表した
のち、ふるさと回帰支援センターへの相談件数は増加
(12月～4月、前年比約13%増)

地域課題の解決や将来的な地方移住に向けた裾野を拡大するため、定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大を目指す。その際、個人と企業の取組を加速。

「関係人口」づくりのイメージ

定住/常勤

UIJターンによる起業・
就業者の創出等

プロフェッショナル
人材事業等

個人

関係人口

企業

農山漁村体験等

交流

地方との縁(関係)が、地方での移住先を決める大きな要因

>地方移住の希望先を選んだ理由と回答割合

- ・自分(または配偶者)の生まれ育った場所だから 35.3%
- ・旅行などでよく行き、気に入った場所だから 32.0%
- ・親(または配偶者の親)の生まれ育った場所だから 13.1%

(出典)平成27年度 地方移住等の実態把握及び今後のあり方に関する調査
調査結果報告書(平成28年3月) 株式会社日本総合研究所

※地方移住等を志向する者1,552名のうち、地方移住を行いたい
場所を具体的に選んだ者634名に関するデータ

5

「関係人口」の創出・拡大②

>様々な「関係人口」に関連する
取組を加速化

・プロフェッショナル人材事業

・サテライトオフィス・二地域居住



Sansan株式会社 神山ラボ(徳島)

・サテライトキャンパス



慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス

・地方創生インターンシップ



・子供の農山漁村体験



2024年度に小学生、中学生、高校生
について現在の取組を倍増

>総合的な情報を集約・発信する拠点を全国
に展開

①特定地域との継続的な関わりを求める
都市住民等の創出・拡大
<「ファン」づくり>

②副業・兼業として地域に関わる人材の活用
<「しごと」づくり>



コーディネート拠点
(関係案内所・案内人)

6